

川崎スポーツ



11月24日(金)25日(土)26日(日)

FI

ラピスタ新橋カップ スポーツニッポン杯争奪戦

強豪が揃う高速バトル

11月24日からの川崎競輪はF1ナイター。ラピスタカップスポニチ杯として開催される。

S級では外国人選手3名が参加することでワールドクラスのスピード感あるレースを楽しむことができる。もう日本ではお馴染みのパークンスオーストラリアをはじめ、力のある選手が揃った。それに対抗する日本勢には地元元の桐山敬太郎(神奈川・88期)と佐藤龍二(神奈川・94期)。近畿から追加参戦の筒井裕哉(兵庫・89期)らがいる。

A級戦は各地区の主役がいかに活躍できるかが焦点。地元からは本格化しつつある志佐明(神奈川・107期)、北日本地区からは積極先行がウリの坂本周作(青森・105期)、そして関東勢にはオールラウンダーの恩田淳平(群馬・100期)の3人がシリーズの主役となりそうだ。

ガールズケイリンは石井寛子(東京・104期)を筆頭に、荒牧聖未(栃木・102期)、山原さくら(高知・104期)、細田愛未(埼玉・108期)らが揃い激戦ムードだ。

S級注目選手

桐山 敬太郎
神奈川・88期

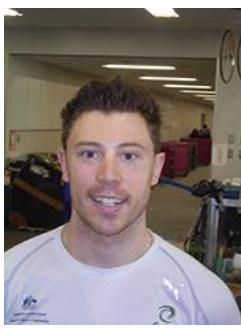


日本勢のなかで注目したいのは桐山敬太郎。今期はS2班の格付けだが、グレードレースでも活躍できる実力者。先行、まくりの自力に加えてさばきもこなすオールラウンダー。要所の判断も的確で、展開に応じた走りを持ち味。同僚の佐藤龍二やカマシ、まくり強烈な鈴木裕(千葉・92期)らと同乗すれば番手回りもありえるが、外国勢のパワーに対抗できるのはこの人だろう。

筒井裕哉も気配はいい。腰の状態が良くなり車の出も抜群に良くなった。10月小田原F1の準決勝で連勝街道を進むパークンスに最後に土をつけている。外国勢のスピード戦に対応できる瞬発力と脚力の持ち主だ。

他にも力ある選手は揃っている。まくり強力な須永俊太(福島・94期)と坂本健太郎(福岡・86期)らは発足の魅力があるし、積極性が光る久米康平(徳島・100期)はまだまだ成長途上だが、外国勢の胸を借りて見せ場を作りにいこう。

パークンス オーストラリア



外国勢の主役はパークンス(オーストラリア)だろう。来日8回目目既に競輪ファンにも馴染みの深い選手で、今年も各地で活躍を続けている。前々回の平塚を優勝した時点で国際競輪での獲得賞金が1億円を突破。もはや国際競輪の顔と言える。後ろに日本人選手が付くことも多いが、しっかりとラインで決める心掛けも見られるし、必要な展開なら先行策も惜しまない。前回伊東のエポリューションも乗り慣れているカーボンフレームで普段以上の力を発揮。力ある日本人選手が参加するなかでも、しっかりと存在感を示した。

ドミトリエフ(ロシア)も来日4回目目日本の競輪に慣れてきていて、まくりの威力は相当で、高いスプリント能力を競走で発揮するようになった。今回が初来日となるバクテニコ(ウズベキスタン)も、序盤こそ屋外の競輪レースに戸惑った様子だが、競走に慣れると共に成績も安定してきた。

A級注目選手

坂本 周作
青森・105期



A級戦の中心は坂本周作。今期に降級してから優勝こそ無いものの、積極的なレース運びに魅力。結果だけにはこだわらず、S級に復帰したことも見据えてスケールの大きい走りを意識しているのだらう。警戒されて捲りに回る場面も多少はあるが、持久戦に持ち込めば別線が簡単には捲らせない。父に坂本典男(51期・引退)、叔父に坂本勉(57期・引退)を持つサラブレッドが躍動感あるレースで人気に応える。地元元志佐明も充実の云々。勝瀬卓也(神奈川・84期)に師事して、この川崎をホームとする若手。先行主体のレースで着実に力をつけて、今期はS級の点数を確保する勢い。いまの実力なら念願の地元優勝は夢ではない。恩田康司(40期・引退)を父に持つ恩田淳平も潜在能力が高い2世選手。小柄ながら抜群の瞬発力を武器にタテ、ヨコ自在な競走で浮上する。



ガールズ注目選手 石井 寛子 東京・104期



今節の優勝候補に推すのは石井寛子。年末にガールズGPが控えるこの時期の参戦は計画的に練習をこなす真つ最中だらうが、レース運びのセンスや踏み出しの良さで十分にカバーできるのだらう。好位キープからのまくり追込みは当地で決まり易く、石井のスタイルに合ったバンクと言えよう。年末の一番まで残り1か月となるこの開催も、しっかりと勝ち切つて弾みをつけていきたいところだらう。

他にも優勝争いに加わる選手は多い。荒牧聖未もまくり中心の組み立てだが、鋭い踏み出しから繰り出す豪快さはガールズでも屈指。山原さくらも主武器はまくり。実力者が揃う展開の早いレースでも勝負強さがあり、間違いなく優勝争いに名を連ねる実力者。前々から自在に攻める篠崎新純(千葉・102期)も堅実且つ前々々攻めるスタイルで連軸から外せない選手だ。

細田 愛未 埼玉・108期



実績ある上位選手が多く揃う開催のなか、注目したい若手選手も参戦している。若手の注目目は自力追込み込みを巧みに使い分けて頭角を現してきた細田愛未だ。前回松戸でも完全優勝。決勝では高木真備(東京・106期)のまくりを併せつ、児玉碧衣(福岡・108期)の逃げを差しての1着。鋭い脚でGPP級の相手を手玉にとり、今後は上位で活躍するだらうし、まだまだ成長著しい若手選手だ。

ルーキーの坂口楓華(京都・112期)はマチュア時代から自転車経験があり、デビュー後も要所で力強いレースを見せている。まだまだムラはあるが、ケイリン競走に慣れてくれば伸びしろは十分にあるだらう。本人も、まだまだ忙しくてしっかり練習ができていない状況。切れるくらいの脚力は維持していきたいですね、と言うように選手生活、競走に慣れてくれば今以上の力を発揮するだらう。

URBAN BANK かわさきケイリン

予想氏名	佐藤龍二	パークンス	筒井裕哉	桐山敬太郎	小岩大介	久米康平	ドミトリエフ	鈴木裕	バベク
府県	神奈川	外国	兵庫	神奈川	大分	徳島	外国	千葉	外国
期別	94	99	89	88	90	100	92	92	92
級別	S1	S2	S1	S2	S1	S2	S2	S1	S2
1着	8回	1回	9回	7回	0回	5回	10回	7回	4回
2着	3回	0回	5回	3回	3回	4回	4回	2回	8回
3着	2回	0回	3回	5回	3回	4回	0回	2回	1回
着外	15回	0回	15回	8回	12回	14回	17回	4回	4回
棄権	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	1回
失格	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
出走回数	28回	18回	32回	23回	19回	27回	16回	28回	18回
勝率	28.5%	94.4%	28.1%	30.4%	0.0%	18.5%	62.5%	25.0%	44.4%
連対率	39.2%	100.0%	43.7%	43.4%	15.7%	33.3%	87.5%	32.1%	66.6%
3連対率	46.4%	100.0%	53.1%	65.2%	31.5%	48.1%	87.5%	39.2%	72.2%
H数	1回	1回	1回	2回	0回	8回	1回	5回	6回
B数	1回	1回	1回	3回	0回	12回	5回	8回	10回
観戦定額	108.17	112.27	104.43	107.65	105.00	104.18	110.62	105.89	109.00